

保育現場の危険事例と保育者の意識に関する考察

－「ヒヤリ、ハット」事例のデータベース化と安全チェックリストの作成に向けて－

●
Consideration on dangerous cases in nursery school and childcare consciousness

—Creating a database of incidents and toward creating a safety checklist—
.....

●
横田典子¹

Noriko Yokota¹

[要旨]

本研究は、筆者が共同研究者として携わっている研究「保育現場における危険事例とよりよい保育環境に関わるアンケート調査」のプレ調査として、「ヒヤリ、ハット」事例を収集し、データベース化したものである。また、事例と保育者の意識を照らし合わせて両者の関係性を考察し、共同研究の一助とすることも試みた。

その結果、データベースからは、戸外では固定遊具、室内では椅子や棚などの備品に関わる事例が多いことが読み取れた。事例と意識の考察からは、遊具や椅子など子どもが遊びに用いる物は、危険な物として認識されにくいこと、アンケートの回答傾向からは、危険になりうる場所や物は園によって異なり、保育者によっても捉え方が異なることが読み取れた。このことから、共同研究で作成する安全チェックリストでは、各園の施設環境や子どもの姿を踏まえた適切な援助を行うための視点と職員間で共通認識を持つことが重要であると示唆された。

[キーワード]

危険事例、保育者の意識、「ヒヤリ、ハット」、データベース、安全チェックリスト

[Key words]

Dangerous case, Childcare consciousness, Incident, Database, Safety checklist

[所 属] 1 岡崎女子短期大学(Okazaki Women's Junior College)

1. はじめに

1-1 はじめに

本研究は、「子ども好適空間研究拠点整備事業」の必須研究「保育現場における危険事例とよりよい保育環境に関わるアンケート調査」のプレ調査として保育現場の安全管理の実態を把握するものである。

必須研究の目的は、事故を防止するために役立つ、保育に生きる具体的なチェックリストを作成し、“子どもにとって居心地が良く、夢中になれる空間”であるための環境を検討することにある。ここでいう「居心地が良く、夢中になれる空間」とは、安全性を確保した上で子どもが居心地の良さを感じることが出来る空間、子どもが集中して生き活きと自己発揮出来る空間である。筆者は、上記必須研究の共同研究者として、保育現場における「ヒヤリ、ハ

ット」事例のデータベース化を担当し、その結果と考察を本稿にまとめる。

1-2 保育現場における安全管理の現状

文部科学省『幼稚園施設整備指針』の総則では、基本的方針として「健康で安全に過ごせる豊かな施設環境の確保」¹⁾が示されている。また、『保育所保育指針』においても「事故防止及び安全対策」として「施設内外安全点検に努め、安全対策のために全職員の共通理解や体制づくりを図る」²⁾とある。平成28年には、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」が通知され、各園においても事故予防マニュアルを設け、施設や遊具・玩具の安全点検が行われている⁽¹⁾。

しかし一方で、保育所、認定こども園、幼稚園等の保育現場においては、保育者不足の恒常化があり、人手不足や多忙さから重篤な事故の発生に繋がる危険性が懸念されている。平成30年には、教育・保

育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議において、事故の再発防止策やガイドラインの改善に向けた年次報告が取りまとめられ、平成29年4月から平成30年4月に事故報告があった教育・保育施設等において発生した、治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故は610件という現状にあると報告されている。負傷におよんだ事故の内訳は、「自らの転倒・衝突によるもの」が4割、「遊具等からの転落・落下」3割と不慮の事故が大半を占めている³⁾。

また、厚生労働省「平成29年人口動態統計」の死亡順位別にみた年齢階級でも「不慮の事故」は、0歳で3位、1～4歳では2位、5～9歳でも2位といずれの層でも3位以内である⁴⁾。このように、子どもの死亡や事故の原因は「不慮の事故」が多く、保育施設だけでなく、家庭や身近な場所で発生している。

1-3 研究目的

本研究では、共同研究で作成を目指すチェックリストの手掛かりを得るために、岡崎市内の保育者に対して実施した「子ども好適空間に関するアンケート」⁽²⁾から「ヒヤリ、ハット」事例を収集し、データベース化する。

また、「ヒヤリハット」事例と保育者が危険を感じている場所や物について、アンケートの回答に頻出するワードを調査し、両者を照らし合わせることで、「ヒヤリ、ハット」事例と保育者の意識の関係性について考察を加え、共同研究の一助とする。

1-4 「リスク」と「ハザード」

安全管理に関わる考察を行うにあたり、リスクとハザードについての概念を整理する必要がある。『都市公園における遊具の安全確保に関する指針』では、「子どもの遊びにおける安全確保に当たっては、子どもの遊びに内在する危険性が遊びの価値のひとつでもあることから、事故の回避能力を育む危険性あるいは子どもが判断可能な危険性であるリスクと、事故につながる危険性あるいは子どもが判断不可能な危険性であるハザードとに区分するものとする」⁵⁾と示されている。リスクとハザードの概念については、松野敬子や野田舞らが論を展開している⁽³⁾が、共同研究においては、上記の国土交通省より示された定義を用いているため、本研究もこれに準ずることとする。

2. 研究方法

2-1 調査対象

岡崎市立保育園(35園)、こども園(3園)に勤務する正規(任期付き含む)、嘱託、臨時的任用職員480名。

2-2 調査方法

平成30年3月に実施した「子ども好適空間に関するアンケート」における「Q1平成29年度に起こった危険事例を教えてください」及び、「Q2園内で危険を感じる場所や物がありますか」の回答を用いる。なお、回答は「戸外」「室内」別々に自由記述で求めている。

2-3 「ヒヤリ、ハット」事例のデータベース化方法

「Q1平成29年度に起こった危険事例を教えてください」の回答を用い、下記に示す手順でデータベース化を行う。ここでは、例として「ブランコの後ろに入らないようにロープをしているが、子どもが中に入ってしまいヒヤリとした。」を挙げる。

- ①各回答の全文より、事例に該当する部分を抜き出す。(例：ブランコの後ろに入ってしまいヒヤリとした。)
- ②抜き出した事例から危険が起きた「場所」「物」「時間(室内のみ)」が特定できる順に抜き出し、カテゴリー化する。(例：「物」にカテゴリー化)
- ③各カテゴリーの中から個々の場所(物・時間)が近いものを集め、分類項目を作成する。(例：「ブランコ」が分類項目)
- ④分類項目の中で「〇〇によって△△した」、「〇〇が△△になった」など内容が同一であるものをまとめる。(例：「近づく・スペースに入る」に統一)
- ⑤分類項目をまとめ、大項目を作成する。(例：「遊具」が大項目)

2-4 「ヒヤリ、ハット」事例と保育者の持つ意識の関係性についての考察方法

「Q1平成29年度に起こった危険事例を教えてください」と「Q2園内で危険を感じる場所や物がありますか」の回答を用い、下記に示す手順で「戸外」「室内」のそれぞれに調査・考察を行う。

- ①「Q1」「Q2」の回答が片方だけの回答者を除外する。
- ②「Q1」を事例、「Q2」を保育者の意識として、デ

データベースで使用した分類項目のワードごとに回答に含まれる数を調査する。

- ③「Q1」と「Q2」の結果を照らし合わせその関係性について考察する。

3. 結果と考察

3-1 回答者の属性

アンケートの回答は、439名の対象者より得られた。回答者の属性は表1に示す通り、正規職員が242名(55.4%)と半数を占め、保育経験については、1～5年目が184名(41.9%)と最も多かった。

表1 回答者の属性 (n=439)

		(人数)	(%)
雇用形態	正規職員 (任期付き含む)	243	55.4%
	嘱託職員	162	36.9%
	臨時的任用	30	6.8%
	回答なし	4	0.9%
保育経験	1～5年目	184	41.9%
	6～10年目	89	20.3%
	11～15年目	82	18.7%
	16～20年目	49	11.2%
	21年目以上	35	8.0%

3-2 「ヒヤリ、ハット」事例

調査の結果、戸外406件、室内386件の事例が得られた。しかし、得られた回答の中には、質問項目が「危険事例」について問うものであったため、事故に至る前の「ヒヤリ、ハット」から軽微な事故の事例が見られた。本研究は、“子どもにとって居心地が良く、夢中になれる空間”であるための環境を検討する一助であることから、ハインリッヒの法則⁽³⁾を基に、両者を重篤な事故に繋がる前の「ヒヤリ、ハット」として捉え、分類せずに扱うこととした。

(1) 戸外

調査の結果を表2に示す。その結果、「固定遊具」が191件と圧倒的に多く、場所別で多かったのは「テラス・階段」の32件であった。固定遊具の内訳では、滑り台、ブランコ、鉄棒の順となっているが、ブランコは「近づく・スペースに入る」や「横切る」など、軽微な事故よりも「ヒヤリ、ハット」に類す

る回答が半数以上を占めた。その他、「ボール」や「三輪車」も多く、場所や物は特定できないが、「前を見ないで走る」や「走っている子同士でぶつかる」なども12件ずつあった。

表2 「ヒヤリ、ハット」事例【戸外】

カテゴリー	大項目	分類項目	内容	件数		
場所	場所(97)	テラス・階段(32)	7.9%	段差でつまづく	7	
			階段・段差から転落する	5		
			転倒して段差にぶつかる	5		
			走ってつまづく	5		
			靴を脱いで(履いて)よろける・バランスを崩す	4		
			走って他児や物にぶつかる	2		
			見ていないところで階段を登る・降りる	2		
			階段で前の子を押す	1		
			帽子を取ろうとして転倒する	1		
			柵・門・フェンス(23)	5.7%	園外に出ようとする	9
				門の鍵を開ける	4	
				柵や門を登って園外に出る	3	
				門・フェンスにぶつかる	3	
				柵に登る	2	
		危険防止の柵を通り抜ける		1		
		砂場(11)	2.7%	保育者の死角となっている	1	
			5	困いの段差でつまづく・滑る	5	
			1	周りを見ずに遊ぶ	1	
			1	玩具が他児に当たる	1	
			1	玩具が砂に引っ掛かる	1	
			1	中に割れた玩具がある	1	
			1	ブルーシートの中に子どもが隠れる	1	
			1	排水溝に足が挟まる	1	
			洗い場・プール(9)	2.2%	パラソルが風で飛ぶ・倒れる	2
				1	排水溝で転ぶ	1
				1	足洗い場の段差でつまづく	1
		1		転倒してタイルにぶつかる	1	
		1		滑って転倒する	1	
		1		プールでおぼれる	1	
		1		ブルーシートの中に子どもが隠れる	1	
		1		グレーチングの付近で転倒する	1	
		園外(8)	2.0%	集団から離れる・手を離す	2	
2	道路に転倒・側溝に落ちる		2			
1	石垣が崩れてくる		1			
1	坂道で転ぶ		1			
1	岩の段差で足を滑らせる		1			
1	お弁当やお菓子の乾燥剤を口に入れる		1			
坂・丘などの斜面(4)	1.0%	走って転倒する	2			
	1	足を滑らせて転倒する	1			
	1	危険な降り方をする	1			
コンクリート(3)	0.7%	転倒してぶつかる	3			

物	倉庫 (2)0.5%	倉庫に入ろうとする	1	
		扉で手を挟む	1	
		花壇(2)0.5	ブロック・レンガでつまづく	2
		芝生(2)0.5	滑って転倒する	2
	駐車場 (1)0.2%	飛び出す	1	
		全般 (21) 5.2%	マットでつまづく・転倒する	6
	固定 遊具 (191) 47.0 %	5.2%	落下する	5
			転倒して遊具にぶつかる	3
			固定遊具の間を走り抜ける	3
			足を滑らせる	2
			危険な遊び方をする	1
			固定のゆりみでつまづく	1
			滑り台 (49) 12.1%	足を踏み外す・バランスを崩す
		階段で後ろに転落する	7	
		複数人で登る・滑る	6	
		転落する	4	
		見ていないときに登る・滑る	4	
		前の子を押す	3	
		上面でつまづく・バランスを崩す	3	
		上面に立つ・のぞき込む	3	
		危険な体制で滑る・滑っていて危険な体制になる	3	
		階段以外から登る	2	
		滑ってくる子と他児がぶつかる	1	
		滑り降りたところで転倒する	1	
		マットにつまづいて転倒する	1	
	手すりに立つ	1		
	下に潜り込む	1		
	高温になっている	1		
	乳児用 滑り台 (14) 3.4%	上面でバランスを崩す	5	
		登る際に転落する・よじ登って転落する	4	
		足を踏み外す	2	
		手を離して転落する	2	
		隙間から落下する	1	
	ブランコ (47) 11.6%	近づく・スペースに入ってくる	24	
		手を離して落下する	7	
		前や横、後ろを横切る	6	
		落下する	3	
		落下してブランコにぶつかる	2	
		後ろにひっくり返る	2	
		勢いよくこぐ	2	
	飛び降りる	1		
	鉄棒 (31) 7.6%	手を離す・手を離して落下する	16	
		鉄棒に気づかずにぶつかる	5	
		転落する	3	
		勢いあまって落下する	3	
		順番待ちで近づく	2	
		子どもが子どもを持ち上げる	1	
逆上がり台から落下する		1		
ジャングル ジム (11) 2.7%	手や足を滑らせる・滑らせて落下する	4		
	落下する	2		
	走っていてぶつかる	2		

物	他児と押し合いになる・他児の手を踏む	2		
		飛び降りる	1	
		アスレチック (5)1.2%	つまづく・つまづいて転倒する	2
	狭い所に挟まる	2		
		落下する	1	
	雲梯 (4) 1.0%	落下する	1	
		勢いがついて落下する	1	
		手が滑り落下する	1	
		着地に失敗する	1	
	太鼓橋 (3) 0.7%	手を滑らせて落下する	1	
		他児が遊んでいる時に下を通る	1	
		着地に失敗する	1	
	タイヤ (2)0.5%	つまづく・つまづいて転倒する	1	
		落下する	1	
	登り棒 (1)0.2%	登ったまま降りられなくなる	1	
	その他 (3)0.7%	動物の遊具から落下する	2	
		走っていて家の遊具にぶつかる	1	
	体育 用具 (33) 8.1%	ボール (20) 4.9%	追いかけてブランコに近づく	5
			追いかけて物や遊具に当たる	4
			ボールが他の遊びをしている子に当たる	3
		ボールが園外に出る	3	
		追いかけている子同士がぶつかる	2	
		拾おうとしてバランスを崩す	2	
		片付いていないボールを子どもが踏む	1	
		平均台 (4) 1.0%	足を滑らせる	2
			バランスを崩す	1
			運搬時に子どもに当たる	1
	縄跳び (3)0.7%	他児に絡む・他児が踏む	2	
		首に引っ掛ける	1	
	フラフープ (3) 0.7%	電車ごっこでスピードを出す	1	
		電車ごっこで狭い所を通る	1	
		首に引っ掛ける	1	
	跳び箱 (2)0.5%	手首を痛める	2	
竹馬(1)0.2	立て掛けているものが倒れる	1		
乗り 物 (40) 9.9%	三輪車 (14) 3.4%	他児とぶつかる	5	
		転倒する	5	
		タイヤに巻き込まれる	1	
		3人乗りをする	1	
	スピードを出す	1		
	他児が押す	1		
	コンピカー (11) 2.7%	前につんのめって転倒する	9	
転倒する		1		
バランスを崩し、転倒する		1		
一輪車 (5) 1.2%	転倒する	2		
	片付けの時に子どもに当たる	1		
	自分で片付けようとして下敷きになる	1		
他児や物にぶつかる	1			
手押し車 (4) 1.0%	他児や物にぶつかる	2		
	手押し車に子どもがぶつかる	1		
	くぼみにはまる	1		

自然環境 (14) 3.5%	その他 (6) 1.5%	避難車で乗っている子が体制を変えてバランスを崩す	1
		乳母車でのぞき込んで落下する	1
		キックボードでバランスを崩す	1
		スクーターで危険な遊び方をする	1
		豆電自動車で地面と引っ掛かり転倒する	1
		自転車の前を横切る	1
	木 (10) 2.5%	木の根につまずく	6
		枝を持ったまま転倒する	1
		木登りで転倒する	1
		切った木の付近で転倒する	1
	石 (4) 1.0%	木で擦りむく	1
		転んだ所に石がある	2
		口に入れる	1
	その他 (31) 7.6%	石を持ったまま遊ぶ	1
前を見ていないで走る		12	
走っている子同士でぶつかる		12	
走って物にぶつかる		1	
ウサギ小屋に指を入れる		1	
玩具の取り合いになる		1	
高い所に登る		1	
他児の首に手が当たる		1	
掲示板が風で倒れる	1		
窓で友だちの手を挟む	1		

(2)室内

調査の結果を表3に示す。その結果、場所別で多かったのは「トイレ」、次いで「廊下・テラス」であった。「備品」に関する事例も144件と非常に多い。中でも、椅子や棚など重みの少ない物が原因になりやすいことが読み取れる。また、建材に関わるものでは、「扉・ドア」が47件と最も多かった。

事故が発生しやすい場面とされている食事中や睡眠中については、「食事」が13件あったものの、「睡眠」は1件のみであった。睡眠中は子どもの状態が見えにくく、事例として挙がってこないことが、反対に危険を大きくし、死亡原因の1位⁽⁵⁾に繋がっていると考えられる。

表3 「ヒヤリ、ハット」事例【室内】

カテゴリー	大項目	分類項目	内容	件数
場所	場所 (61) 15.8% %	トイレ (24) 6.2%	濡れている床で滑る	3
			便座から落ちる	3
			扉に指を挟む	3
			焦って転ぶ・ぶつかる	2
			出会い頭でぶつかる	2
			他児とぶつかる	1
			扉にぶつかる	1
			ドアの向こうにいる子に気づかずに扉をあける	1
			ドアの鍵が外れる	1
			ドアノブにぶつかる	1
			空気孔に指を入れる	1
			転んで便器にぶつかる	1
			タオルに引っ掛かって転ぶ	1
			トイレのつい立につまずく	1
			ざら板で足を挟む	1
		トイレ内の段差につまずく	1	
		廊下・テラス (15) 3.9%	走ってぶつかる	4
			雨の日の湿気で滑る	4
			角などの出会い頭でぶつかる	4
			段差でつまずく・転倒する	1
			靴を履いている子の手を他児が踏む	1
		階段 (9) 2.3%	普段は無い物にぶつかる	1
			つまずく・転倒する	2
			転落する	2
			シューズがあっておらず転ぶ	2
		出入口・間仕切 (7)1.8%	上着を持ったまま登り(降り)、つまずく・転倒する	2
			他児とぶつかる	1
			出入口で転ぶ	1
洗い場・水道 (3)0.8%	いつの間にか部屋を出ている	4		
	間仕切りでつまずく	2		
	洗い終わった子と洗う子がぶつかる	1		
その他 (3)0.8%	手洗い場の角にぶつける	1		
	水道に頭をぶつける	1		
	狭い場所で転ぶ・ぶつかる	2		
物	建材 (71) 18.4% %	扉・ドア (47) 12.2%	段差でつまずく	1
			手や指を挟む	28
			子どもが他児の手や指を挟む	8
			引き戸・仕切り戸で手や指を挟む	5
			大人が子どもの手や指を挟む	2
			扉の下部につまずく	1
			鍵がかかっておらず扉が開いて転ぶ	1
		床 (14) 3.6%	ドアにぶつかる	1
			チャイルドロックが緩んでいる	1
			濡れている床・水ぶきをした床で滑る	6
			靴下で滑って転ぶ	4
			シューズをはいていない・かかとを踏んでいて、転倒する	2
			走って床にぶつける	1

		フローリングで滑る	1		
壁・柱 (5) 1.3%		壁にぶつかる	1		
		走って壁にぶつかる	1		
		転んで壁にぶつかる	1		
		回転して壁にぶつかる	1		
		眠い時に歩いて壁にぶつかる	1		
窓・サッシ (5)1.3%		指を挟む	4		
		勝手に開閉する	1		
備品 (144) 37.3 %	椅子 (40) 10.4%	座り方が悪く、ひっくり返る・倒れる	13		
		椅子の上に立つ	5		
		しまっていない椅子につまずく	4		
		椅子から落ちる	3		
		転んで椅子にぶつかる	3		
		椅子に引っ掛かる・つまずく	3		
		机との間に指を挟む	2		
		椅子を投げる	2		
		長椅子に乗り椅子ごと倒れる	2		
		椅子を持ち上げる時に他児に当たる	1		
		飛び降りて遊ぶ	1		
		手をかけバランスを崩す	1		
		棚・カラー ボックス (40) 10.4%		棚の上に乗る・乗って落ちる	11
				走っていて棚にぶつかる	5
				もたれかかって倒れる	5
				押して倒れる	3
				棚にぶつかる	3
棚が倒れる	2				
寄りかかり、足を挟む	2				
引き出しで手を挟む	2				
つまずく・転倒して棚にぶつかる	1				
ぶつかって棚が倒れる	1				
動かそうとして足を挟む	1				
棚に腕が挟まる	1				
上に置いていたものが落ちる	1				
机・台 (16) 4.1%		机にぶつかる	9		
		机の上に乗る	4		
		机につまずく	1		
		テーブルクロスが滑る	1		
		老朽化している部分で指を擦りむく	1		
柵・つい立 (15) 3.9%		もたれて倒れる	5		
		足や指を挟む	3		
		つい立が倒れる	1		
		つい立を押す	1		
		柵につまずく	1		
		隙間に首を突っ込む	1		
		ささくれている箇所や出ている釘で手を擦りむく	1		
		柵の後ろの隙間に入る	1		
		登って転倒する	1		
コップ掛 け・タオル 掛け		コップ・タオル掛けにぶら下がろうとする	3		
		もたれて倒れる	2		

(8) 2.1%		コップやタオルを引っ張ってとろうとし、倒れる	2	
		タオル掛けの下にもぐる	1	
マット ・ござ (8)2.1%		マット・ござの端でつまずく	6	
		マットが滑って転ぶ	1	
ロッカー (7) 1.8%		友達の上に乗る	1	
		転んで・つまずいてロッカーにぶつかる	4	
靴箱 (4) 1.0%		死角ができ、子ども同士がぶつかる	1	
		他児とぶつかってロッカーにぶつかる	1	
		カバーを引っ張り上にあつたものが落ちる	1	
その他 (6) 1.6%		転んで靴箱にぶつかる	1	
		移動式下駄箱が突然倒れる	1	
		靴箱に引っ掛かって転ぶ	1	
遊具 (3)0.8	遊具全般 (3)0.8%	靴箱がドアに引っ掛かり開かない	1	
		布団でつまずく	1	
		布で転ぶ	1	
		オルガンにぶら下がる	1	
		ベットにぶつかる	1	
		置いてある物につまずく	1	
玩具 (42) 10.9 %	玩具全般 (18) 4.7%	カゴの中に入って転倒する	1	
		遊具全般	遊具から転落する	2
		遊具にぶつかる	1	
		子ども同士で取り合いになる	7	
		落ちていた玩具につまずく・転ぶ	3	
		置いてはいけぬ所に置く	2	
		玩具を投げる	1	
		玩具を取ろうとバランスを崩す	1	
		欠けている玩具で手を挟む	1	
		玩具が目付近に当たる	1	
転んで玩具にぶつかる	1			
玩具で滑る	1			
ままごと セット (10) 2.6%		ままごととセットの台にぶつかる	3	
		ままごととセットの台に登る	2	
		ままごととセットの台が倒れる	1	
		動かした時に倒れる	1	
		コップを加え、息ができなくなる	1	
積み木 (6) 1.6%		ままごととセットの玩具を投げる	1	
		ままごととセットの戸棚が落ちる	1	
		積み木を高く積もうとしてバランスを崩す	2	
		積み木を投げる	1	
		高く積んだ積み木が倒れて他児に当たる	1	
		積み木で他児をたたく	1	
その他 (8) 2.1%		積み木の箱が足の上に落ちる	1	
		あやとりを首に巻く	1	
		絵本の角が他児に当たる	1	
		お医者さんごっこ用の包帯を首に巻く	1	
		釣り竿の磁石がガラスに当たる	1	
		電車ごっこの紐が首にかかる	1	
		ビュンビュン駒に顔を近づける	1	

		ビーズを鼻に入れる	1		
		ビー玉を口に入れる	1		
文具・画材 (15)	はさみ (11)	はさみが他児に当たる	4		
		はさみを持って歩く	2		
		はさみを間違った使い方・危険な持ち方をする	2		
		はさみをそのままにして離れる	2		
		はさみを他児に向ける	1		
	その他 (4)	ホチキスで手を切る	1		
		テープカッターで指を切る	1		
		段ボールカッターで手を切る	1		
		粘土を鼻に詰める	1		
		1.0%			
時間 (13)	食事 (6)	食器類	プラスチックスプーンを嘔む・嘔んで飲みそうになる	2	
		1.6%	ストローに小石を詰める	1	
			フォークを友達に近づける	1	
			串を口にくわえる	1	
			箸をくわえたままつまずく	1	
	アレルギー・除去食 (4)	アレルギー	アレルギーの食材が除去されずに出てくる	1	
		1.0%	除去食のある子が普通食の席に座る	1	
			除去食に手を洗っていない子が近づく	1	
			アレルギーのある子に普通食を触った手で手を出してしまう	1	
	配膳 (1)	0.3%	乳児では配膳されないものが盛られている	1	
		その他 (2)	0.5%	食べたことのない食材を口ににする	1
			口の中に詰め込む	1	
	睡眠 (1)	0.3%	その他 (1)	寝ている子につまずく	1
	その他 (36)	9.3%	走って転ぶ・ぶつかる・滑る	7	
			他児とぶつかる・他児を押す	3	
			走って他児とぶつかる	2	
			転んで・バランスを崩して物に当たる	2	
			ふざけて危険になる	2	
友だちを嘔む			2		
穴に指を入れ、抜けなくなる			2		
おんぶ紐が外れる			1		
おんぶをしようとしたら暴れて落ちそうになる			1		
置き忘れた物に子どもがつまずく			1		
子どもを抱っこしたままつまずく			1		
自宅から持ってきてはいけないものを持ってくる			1		
シューズをきちんと履いていない			1		
高い所に登ろうとする			1		
他児の目を突こうとする			1		
友達の上に乗る			1		
何も無い所で転ぶ			1		
ハイハイの子につまずく			1		
鼻に異物を入れる			1		
振り返ったら後ろに子どもがいる			1		

物を持っている時にしがみついてくる	1
モップ掛けで後ろを通った子に当たる	1
次亜塩素酸による服の色落ち	1

3-2 「ヒヤリ、ハット」事例と保育者の意識

(1) 戸外

「Q1」「Q2」の回答が片方だけの回答者を除外した結果、戸外では、349名が考察の対象者となった。回答に出てきたワードの数を図1に示す。

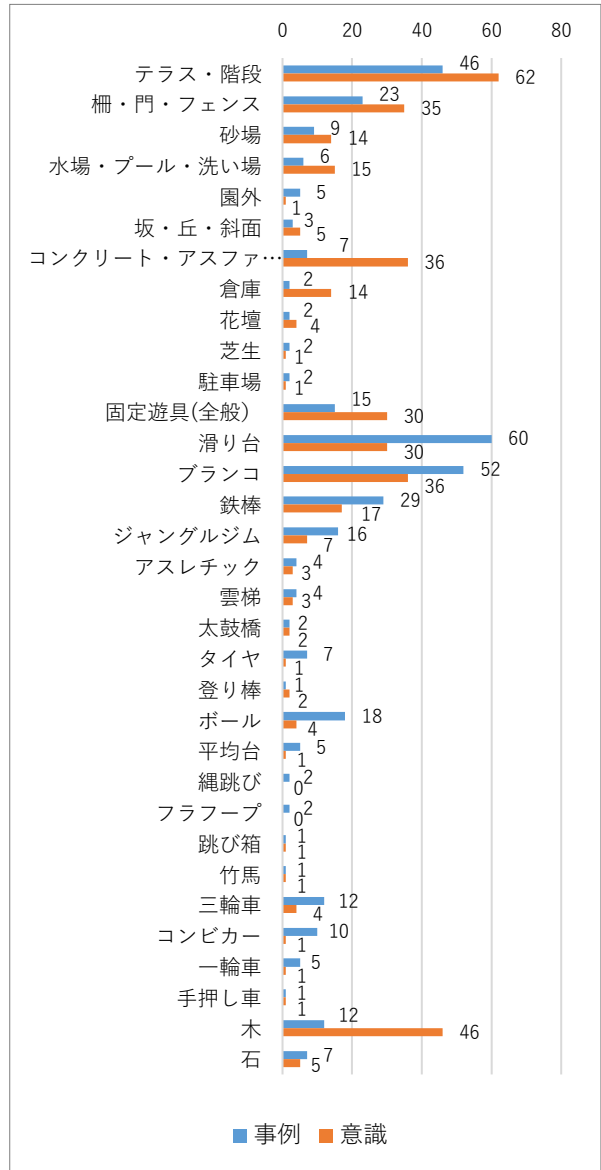


図1 事例と意識に見られるワード数【戸外】

調査の結果、事例で最も数が多かったのは、「滑り台」であった。次いで、「ブランコ」とデータベースと同じく、遊具に関する数が多い。一方、保育者が危険と感じている場所や物について、最も多かった

のは、「テラス・階段」であり、次いで「木」であった。

実際に起こった事例と保育者の意識を照らし合わせると、「テラス・階段」や「コンクリート・アスファルト」、「柵・門・フェンス」など設備環境に関わるものは、保育者の意識が高いものの、実際の事例に挙がってくる数としては遊具よりも少なく、反対に「滑り台」や「ブランコ」などの遊具は、危険を感じる物として挙がってきにくいにも関わらず、事例では挙がってきやすい傾向にあることが読み取れる。また、保育者の意識では、2番目に多かった「木」についても事例では12件と少なく、実際の事例に繋がる可能性は低いと言える。

その他、注目すべき点として挙げられるのは、遊具の中で、事例では滑り台が最も多いのに対し、意識ではブランコが最も多い点である。『学校の管理下の災害 [平成30年版]』によると、幼稚園、幼保連携型認定こども園及び保育所等の負傷・疾病の体育用具・遊具別件数表では、1位が滑り台、2位が総合遊具、3位が鉄棒となっている⁶⁾。本研究のデータベースにおいても、ブランコは、「ヒヤリ、ハット」に類する回答が多く見られた。このことから、ブランコはヒヤリとする場面は多いものの、事故に繋がる可能性は滑り台より低いことが示唆される。

(2)室内

調査の結果、室内では、308名の回答者が考察の対象者となった。結果を図2に示す。

調査の結果、事例で多かったのは、「柵・カラーボックス」であり、次いで「椅子」となっている。保育者が危険を感じている場所や物では、「扉・ドア」が最も多く、次いで、「柵・カラーボックス」、「廊下・テラス」であった。

両者を照らし合わせると、戸外の調査で見られたように、室内でも「扉・ドア」、「廊下・テラス」など、設備環境に関わるものは、意識の数が多いものの、事例に挙がってくる数は少ない傾向にある。一方、「椅子」や「玩具」は、事例の数が意識の2倍以上になっている。「椅子」は、事例数で2番目に多かった物であるが、意識の数は18件と少なく、戸外の「遊具」と同様に、保育者の意識は低いにも関わらず、事例としては多く挙がる傾向にあることが読み取れる。

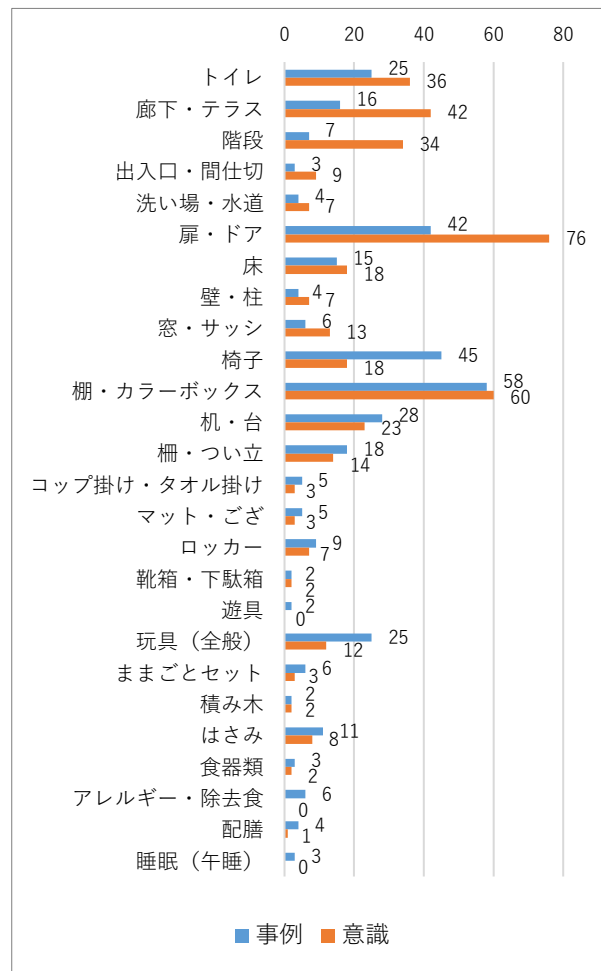


図2 事例と意識に見られるワード数【室内】

(3)全体傾向

以上のことから、戸外、室内の両者で設備環境に関する場所や物は、保育者の意識では数が多いものの、事例に挙がってくる数は少ない傾向にあることが示唆された。反対に、保育者の意識では数が少なく、事例での数が多かった物として、戸外では「遊具」、室内では「椅子」が挙げられた。また、室内では「柵・カラーボックス」が事例と意識の両者で多かった。

「椅子」や「柵・カラーボックス」は子どもの身近にあり、戸外の「遊具」と同様に子どもたちが遊びに用いる物である。これらの遊びに使う物が、保育者の意識で少ない数となった理由には、これらに関する危険を、第一章で述べた「子どもの遊びの中に内在する危険」としての「リスク」と捉えている可能性がある。「子どもの遊びの中に内在する危険」は「遊びの価値のひとつ」と示されているように、危険の要因そのものを取り除くことが適切な援助とは言えない。すなわち、保育者はそれを「危険な物」ではなく、「そこに含まれる危険を想定し、適切

な援助をするべき物」として捉えていると推測できるのだ。とはいえ、結果として事例に挙がってくる数が多いのであれば、共同研究で目指すチェックリストでは、援助に関する視点の充実が重要な要素となることを示唆するものである。

4. アンケートの回答傾向

第三章で述べたように、本調査で得られた事例の回答は、危険のレベルが様々であった。アンケートの回答方法が自由記述であったことも要因ではあるものの、記述の仕方でも子どもの年齢やその場の状況など細かい部分まで書かれているものが多くあった。データベースで1件という項目が非常に多いことから回答の多様性が読み取れる。ここでは、その多様性に焦点を当てて考察を試みる。

『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』には、参考資料として、「年齢別のチェックリスト」の例が挙げられている。子どもの年齢や発達段階によって危険の種類は異なってくることは言うまでもなく、本調査でも、危険だと感じる場所や物について「子どものその日のテンション、成長段階によって危険だと認識しなくてはいけない場所などが違うので、しぼりきれない。」等の回答が見られた。

また、「園庭が狭くてぶつかる」や「柵が低く、ボールが道路に出てしまう」など園の設備環境に関する記述も多かった。園の設備環境についても子どもの姿や発達段階と同様に様々であり、事故が起きやすい場所も異なる。前述したガイドラインにも「設備等の安全に関するチェックリスト」、「遊具のチェックリスト」の例も示されているが、年齢別のチェック項目と比較すると、設備・遊具のチェック項目は、はるかに少ない。子どもの発達段階はある程度の段階が見えているのに対し、設備や遊具、備品などの物的環境は各園によって異なることから、参考資料として記述できる項目が厳選されてしまうのだろう。

さらに、野田・山田(2018)の研究によると、ベテラン保育者の「ヒヤリ、ハット」に対する語りには、遊びの価値として危険性を併せ持つことや、それに対する保育者の補助が有効であることを理解しているといった「洞察力の深さ」があり、遊びのなかに潜むハザードやリスクに気づく感受性と観察力がまだ育っていない新人の観点と「質が全く異なる」

という⁷⁾。本研究では野田らの論のように新人とベテランでの比較を行っていないものの、その場の状況や援助、配慮している事等が書かれている回答も見られたことから、記述内容の“質”は様々であった。

各園の子どもの姿、設備環境に加え、新人とベテラン保育者でも違いがあるとすれば、本アンケートで見られた回答の多様性も当然の結果である。そして、このことは、本調査においても子どもの姿や園の設備環境、そして、「ヒヤリ、ハット」に対する視点、すなわち、「何が防がなければいけない事項で、何が子どもの成長に繋がるのか」というリスクとハザードの捉え方が様々であることを示唆するものでもある。

第一章で述べた、平成30年の『教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議 年次報告』には、「死亡事故に至る保育プロセスを検証すると、丁寧な保育への共通認識やリスクへの意識が低い問題点が見られる」⁸⁾とされ、ガイドラインを全職員で共有し、重大事故の発生を予防することが重要と記されている。「丁寧な保育やリスクへの意識の低さ」は、保育者の意識の有無だけでなく、上記のように、保育者のリスクとハザードに対する捉え方の違いから生じる可能性も大いにある。つまり、園の安全管理や援助の方法などについて、情報の共有や意見交換をしつつ、全職員で共通の認識を持つことが必要なのである。

5. まとめ

本研究は、筆者が共同研究者として携わっている研究「保育現場における危険事例とよりよい保育環境に関わるアンケート調査」のプレ調査として「ヒヤリ、ハット」事例を収集し、データベース化を行った。また、「ヒヤリ、ハット」事例と保育者の意識の関係性やアンケートの回答傾向にも着目することで、共同研究で作成を目指す安全チェックリストに向けての考察を深めた。

その結果、作成したデータベースから、戸外では、固定遊具に関わる事例が圧倒的に多く、場所別で多かったのは「テラス・階段」であること、室内では、「備品」、中でも椅子や柵など比較的軽い備品に関する事例が多く、場所別では「トイレ」が多く、次いで「廊下・テラス」であった。

また、「ヒヤリ、ハット」事例と保育者が危険と感じる場所や物を照らし合わせた結果、「テラス・階段」

や「扉・ドア」などの設備環境に類するワードは、事例よりも保育者の意識に挙がってきやすく、反対に、「遊具」や「椅子」など、子どもが遊びに用いる物は、危険な場所や物として挙がってきにくいにも関わらず、事例では多いといった傾向が読み取れた。このことから、共同研究で目指す具体的なチェックリストは、適切な援助を行うための視点を充実させることが重要であることが示唆された。

さらに、アンケート回答の傾向に関する考察からは、子どもの年齢や発達段階、園の設備環境、保育者の経験など、様々な要因によって、危険になりうる場所や物が異なる様子が窺えた。また、回答の記述内容からは、保育者によってリスクとハザードの捉え方が様々であることも読み取れ、職員間での共通認識の必要性が示唆された。

6. 今後の展望

本研究で得られた示唆を基に、“子どもにとって居心地が良く、夢中になれる空間”であるための具体的なチェックリストを作成するならば、既存のガイドラインやマニュアルに加える形で、各園の設備環境や子どもの姿に合わせ、適切な援助を行うための園独自のチェックリストを作成することが必要である。そして、その作成過程において、「何が防がなければいけない事項で、何が子どもの成長に繋がるのか、またどのようにして成長に繋げるのか」といった点において、職員間で情報の共有、意見の交換を行うことが重要であり、その過程を経て、園全体で共通認識を持つことこそが、その園独自の“子どもにとって居心地が良く、夢中になれる空間”を整えることに繋がると考えられる。各園で職員の共通認識を持つためのツールとして利用できるチェックリスト、その具体的な在り方を検討していくことが、今後の課題である。

〔謝辞〕

本研究に際して岡崎市の保育職の皆様にご協力いただきました。深くお礼申し上げます。本研究で集計した「ヒヤリ、ハット」事例のデータベースが、園独自の安全チェックリスト作成の一助となれば幸いです。

また、岡崎女子短期大学「子ども好適空間研究拠点整備事業」必須研究「保育現場における危険事例とよりよい保育環境に関するアンケート調査」として共同研究させていただいている林陽子先生、野田美樹先生にはアンケート資料のご提供、ご助言をいただきました。同じく、共同研究者である櫻井貴大先生も多くのご助言・ご協力をいただきました。ありがとうございました。

〔付記〕

本研究は、岡崎女子短期大学「子ども好適空間研究拠点整備事業」に関わる研究として、文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」の助成を受けて実施したものである。

また、本研究で使用したアンケートは岡崎女子大学・岡崎女子短期大学研究倫理審査での承認を受けて実施したものである。(平成30年度 通知番号38)

〔注〕

- (1)内閣府『教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議 年次報告』(平成30年7月、pp.26-29)によれば、事故報告を提出した施設等のうち、9割以上の保育所・認定こども園、7割以上の幼稚園で事故防止マニュアルの作成している。また、施設の安全点検、遊具・玩具の安全点検についても、9割以上の幼稚園・認定こども園・保育所が実施している。
- (2)「子ども好適空間に関するアンケート」は、共同研究者である林陽子先生、野田美樹先生によって作成、依頼された。筆者は、その資料の提供を受け、データ分析を行った。
- (3)松野は、「国際規格において定義されているリスクとハザードの意味と、我が国の遊具安全基準とのそれとは、全く異なる用法だということは明らかである」(2012、「遊具の安全基準におけるリスクとハザードの定義に関する一考察」『社会安全学研究』第3号、p.69)と述べ、野田・山田もその論を支持し、独自の概念構成図を示している。(2018、「園遊具の遊びの価値と安全性を高める方法についての実証的研究—ハザードとリスクの概念を中心に—」『保育学研究』第56巻、第2号)
- (4)ハイインリッヒの法則では、1つの重大事故の背景には、およそ29の軽微な事故があり、さらにその背景には300のヒヤリ、ハットが存在するとしている。
- (5)内閣府『教育・保育施設等における重大事故防止策を考える有識者会議 年次報告』(平成30年7月、p.8)によると、平成27年から平成29年までの死亡件数35件の発生時状況別の調査では1位睡眠中(71%)、2位食事中(31%)、3位室内活動中(9%)となっている。

〔引用文献〕

- 1)文部科学省(平成30年3月改訂)『幼稚園施設整備指針』p.1
- 2)厚生労働省(平成29年3月告示)『保育所保育指針』p.34
- 3)内閣府(平成30年7月)『教育・保育施設等における重大事故防止策を考える 有識者会議 年次報告』p.16、24
- 4)厚生労働省(2017)『平成29年人口動態統計(確定数)』第8表
- 5)国土交通省(2014)『都市公園における遊具の安全確保に関する指針(改訂第2版)』p.8
- 6)日本スポーツ振興センター『学校の管理下の災害[平成30年版]』帳票2 <https://www.jpnsport.go.jp>
- 7)野田舞、山田真紀(2018)「園遊具の遊びの価値と安全性を高める方法についての実証的研究—ハザードとリスクの概念を中心に—」『保育学研究』第56巻、第2号、p.47
- 8)3)と同じ。p.33

〔参考文献〕

- ・平成27年度教育・保育施設等の事故防止のためのガイドライン等に関する調査研究事業検討委員会(平成28年3月)『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』